

體格 [明治三十三年文部省令第四號學
生、生徒身體検査規定ニ準據ス]

第二號

國語(讀書) 數學 理科 地理 歴史

(『東京音樂學校一覽 從明治四十年至明治四十一年』第四より)

なおこの年度より「官費生募集規程」は「第四 規則」から独立して「第五」となる。

二 カリキュラム

以下は、本節一項で取り上げた『東京音樂學校一覽』の「規則」のうち、「學科課程」だけを取り出し、その変遷を整理したものである。明治二十二年以降、カリキュラムが目立った改正がみられるのは二十六年、三十三年、四十二年で、これは規則の変遷と対応している。ただし二十六年のカリキュラム改正はそれほど大がかりなものではない。四十二年については「規則」同様、第二巻で扱うこととし、大きく変更された場合以外はここでも改正箇所のみを記載するにとどめる。
以下のカリキュラムの資料の出典はすべて『東京音樂學校一覽』である。また年度の表記は前出の「規則」と同様である。

明治二十二年～二十三年

第二 學科課程

第一 豫科ノ學科課程ハ左ノ如シ

倫理	倫理要旨	一年間	毎週	一時
唱歌	單音唱歌	同	同	十時
洋琴	右手左手練習、双手練習	同	同	九時

音樂論	樂典	同	同	三時
文學	和漢文	同	同	三時
英語	讀力	同	同	二時
體操、舞蹈	徒手運動、練習、運動、方舞、演習	同	同	二時

第二 師範部學科課程ハ左ノ如シ

第一年

倫理	倫理要旨	一年間	毎週	一時
聲樂	高等單音唱歌、複音唱歌	同	同	八時

器樂	鋼琴	觸擊法、發相法等、樂曲練習	同	同	十時
風	バイオリン	「バイオリン」生徒ハ四時間ヲ欠ク、姿勢、用弓法、手指運用法、樂曲練習	同	同	四時

音樂論	音樂理論	一年間	毎週	二時
音樂史	本邦及歐洲音樂史	同	同	二時

文學	詩歌學、作歌	同	同	二時
英語	讀方、作文、文法	同	同	三時
體操、舞蹈	徒手運動、練習、運動、方舞、演習	同	同	二時

倫理	倫理要旨	一年間	毎週	一時
聲樂	諸重音唱歌	同	同	八時

器樂	鋼琴	觸擊法、發相法等、樂曲練習	同	同	十時
風	バイオリン	姿勢、用弓法、手指運用法、樂曲練習	同	同	十時
箏	調絃法、單彈法、複彈法、初歩	同	同	二時	

第三 專修部學科課程ハ左ノ如シ

音 樂 論	和聲大意	同	同	二時
英 語	讀方、作文、文法	同	同	二時
教 育	教育學大綱 唱歌教授法	同	同	三時
體操、舞蹈	徒手運動、練習 運動、方舞演習	同	同	二時
倫 理	倫理要旨	一年間	每週	一時
合 唱 歌	高等單音唱歌 複音及諸重音唱歌	同	同	八時
器 樂	洋 琴 手指練習、音階練習 特習法、樂曲練習	同	同	十時
	バイオリン 姿勢、用弓法 手指運用法	同	同	四時
音 樂 論	音樂理論	同	同	二時
音 樂 史	本邦及歐洲音樂史	一年間	每週	二時
文 學	詩歌學、作歌	同	同	二時
外 國 語	英語讀方 作文	同	同	三時
體操、舞蹈	徒手運動、練習 運動、方舞演習	同	同	二時
倫 理	倫理要旨	一年間	每週	一時
聲 樂	合 唱 歌 高等單音唱歌 複音及諸重音唱歌	同	同	一時
獨 唱 歌	練習 歌曲演習	同	同	八時
器 樂				

洋 琴	音階練習、特習法 樂曲練習	同	同	十時
風 琴	觸擊法 發相法等	同	同	八時
バイオリン	手指運用法、特習法 樂曲練習	同	同	十時
ヴィオラ	姿勢、用弓法、手指運用法 特習法、樂曲練習	同	同	十時
ダブルベース	姿勢、用弓法、手指運用法 特習法、樂曲練習	同	同	十時
フリニット	姿勢、用息法、手指 運用法、樂曲練習	同	同	六時
ホルン等	調和及對位ノ理論及 實用、樂曲製作法	同	同	三時
和 聲 學	英語讀方、作文、文法 伊語發音及讀方 音樂教授法	同	同	六時
外 國 語	教育學大綱 音樂教授法	同	同	二時
教 育	徒手運動、練習 運動、方舞演習	同	同	二時
體操、舞蹈				
倫 理	倫理要旨	一年間	每週	一時
聲 樂	合 唱 歌 高等單音唱歌 複音及諸重音唱歌	同	同	一時
獨 唱 歌	高等歌曲	同	同	六時
器 樂	洋 琴 音階練習、特習法 樂曲練習	同	同	九時
	風 琴 樂曲練習	同	同	六時
	バイオリン 手指運用法、特習法 樂曲練習	同	同	九時
	ヴィオラ 姿勢、用弓法、手指運用法 特習法、樂曲練習	同	同	九時
	ダブルベース 姿勢、用弓法、手指運用法 特習法、樂曲練習	同	同	九時
	フリニット 姿勢、用息法、手指 運用法、樂曲練習	同	同	六時
	ホルン等 調和及對位ノ理論及 實用、樂曲製作法	同	同	三時
	和 聲 學 英語讀方、作文、文法 伊語發音及讀方 音樂教授法	同	同	六時
	外 國 語 教育學大綱 音樂教授法	同	同	二時
	教 育 徒手運動、練習 運動、方舞演習	同	同	二時
	體操、舞蹈			

明治二十五年～二十六年

明治二十五年十二月、「小學校教則大綱第十條中唱歌ハ耳及發聲器ヲ練習シ云々ノ箇條ニ基キ本校生徒ニ耳咽喉口洞ノ構造其攝生法及聽音發音ノ學理等ヲ知ラシメンカ爲メ本科二年及三年生ニ音樂的性理學ヲ課シ又唱歌ハ常ニ和歌ト相伴フモノナレハ生徒ヲシテ充分和文學ニ通セシメンカ爲メ課外ニ和文和歌等ノ講義ヲ開キ尋テ正科トシテ音樂理論ノ外稍高尚ナル學理ニ通セシムル爲メ本科二年生ニ音響學ヲ科シ又同二年及三年生ニ文學上ノ力ヲ備ヘシメンカ爲メニ文學ヲ増置セリ」(この部分に関しては明治二十五年～二十六年の『一覽』より詳しく記載されている明治三十年～三十一年の『一覽』から引用)。この件に関しては『音樂雜誌』にも「音樂學校の教科改正」という見出しで次のような記事が見られるので紹介しておこう。「同校に於ては是までは専ら呂律と手術の練磨を主とし教授しつゝありしが村岡校長は深く感ずる所ありて昨冬來先づ試に教科の改正に着手し其筋の協議を経本年よりは師範部專修部の二部共に文學科を増加し音響學等は校長自ら教授の任に當り其他作歌學國語學國文學音韻學發音學教育學英漢學等は黒川眞頼神津專三郎佐藤誠實鳥居忱旗野十郎の諸氏が分任する由殊に一時欠科の發音學を更に興し初級に此一科を置き専ら口頭練習及發音理を授け國々より出でたる師範部生徒などの地方習慣音を教改し唱歌上の發音は一定の正音にするの見込なりと云ふ尙又從來は音樂教員養成の方に傾きありしに今後は樂器上の手術は勿論文學上も眞に人の師となるべき音樂學士を養成するの計畫なり」と(『音樂雜誌』第二十八号、明治二十六年一月、二十三～二十四頁)。

この文學と音響學は、明治三十六年～三十七年以降の『東京音樂學校一覽』によれば、二十六年一月から試課されたことになっているが、実際に『一覽』の「學科課程」に記されるのは明治二十六年～二十七年の『一覽』からである。また生理学と和文和歌の講義は課外で行われたとあるが、その実態を知る手掛りは今のところ見つからない。

明治二十六年～二十七年

前年の教科改正の動きにも見られたように、この年からは師範部二年生に文學、專修部二年生に文學と音響學、同三年生に文學がそれぞれふやされている。予科のカリキュラムはそのままなので、以下、師範部と專修部のみを挙げる。

第二 師範部學科課程ハ左ノ如シ

第一年		第二年	
倫理	倫理要旨	倫理	倫理要旨
聲樂	高等單音唱歌 複音唱歌	聲樂	諸重音唱歌
器樂		器樂	
風琴	觸撃法、發相法等、樂曲練習	風琴	觸撃法、發相法等、樂曲練習
バイオリン	「バイオリン」生徒ハ四時間ヲ欠ク 姿勢、用弓法、手指運用法 樂曲練習	バイオリン	姿勢、用弓法、手指運用法 樂曲練習
音樂論	音樂理論	音樂論	音樂理論
音樂史	本邦及歐洲音樂史	音樂史	本邦及歐洲音樂史
文學	詩歌學、作歌	文學	詩歌學、作歌
英語	讀方、作文、文法	英語	讀方、作文、文法
體操、舞蹈	徒手運動、練習 運動、方舞演習	體操、舞蹈	徒手運動、練習 運動、方舞演習

倫理	一年間	一年間	一年間
聲樂	同	同	同
器樂	同	同	同
風琴	同	同	同
バイオリン	同	同	同
音樂論	同	同	同
音樂史	同	同	同
文學	同	同	同
英語	同	同	同
體操、舞蹈	同	同	同
倫理	一時	一時	一時
聲樂	八時	八時	八時
器樂	同	同	同
風琴	十時	十時	十時
バイオリン	同	同	同

第三 專修部學科課程ハ左ノ如シ

第一年

箏	調絃法、單彈法 複彈法初歩	同	同	二時
音樂論	和聲大意 音響學	同	同	四時
文學	詩歌學、作歌	同	同	三時
英語	讀方、作文、文法	同	同	二時
教育	教育學大綱 唱歌教授法	同	同	三時
體操、舞蹈	徒手運動、練聲 運動、方舞演習	同	同	二時
倫理	倫理要旨	一年間	每週	一時
合唱歌	高等單音唱歌 複音及諸重音唱歌	一年間	每週	一時
洋琴	手指練習、音階練習 特習法、樂曲練習 姿勢、用弓法 手指運用法	同	同	十時
バイオリン	同上	同	同	四時
音樂論	音樂理論	同	同	二時
音樂史	本邦及歐洲音樂史	同	同	二時
文學	詩歌學、作歌	同	同	二時
外國語	英語讀方 作文	同	同	三時
體操、舞蹈	徒手運動、練聲 運動、方舞演習	同	同	二時
倫理	倫理要旨	同	同	一時
聲樂				

第二年

獨唱歌	練聲術 歌曲演習	同	同	八時
洋琴	音階練習、特習法 樂曲練習	同	同	十時
風琴	觸擊法 發相法等	同	同	八時
バイオリン	手指運用法、特習法 樂曲練習	同	同	十時
ヴァイオリン	同上	同	同	十時
ダブルベース	姿勢、用弓法、手指運用法、特習法、樂曲練習	同	同	十時
フリニネット	姿勢、用息法、手指運用法、樂曲練習	同	同	十時
ホルニネット	同上	同	同	十時
和聲學	調和ノ理論及實用	同	同	八時
音樂論	音響學	同	同	二時
文學	詩歌學、作歌	同	同	二時
外國語	英語讀方、作文、文法	同	同	三時
體操、舞蹈	徒手運動、練聲 運動、方舞演習	同	同	六時
倫理	倫理要旨	一年間	每週	一時
合唱歌	高等單音唱歌 複音及諸重音唱歌	同	同	一時
獨唱歌	高等歌曲	同	同	六時
洋琴	音階練習、特習法 樂曲練習	同	同	九時
風琴	樂曲練習	同	同	九時
バイオリン	手指運用法、特習法 樂曲練習	同	同	六時
ヴァイオリン	同上	同	同	九時
ダブルベース	姿勢、用弓法、手指運用法、特習法、樂曲練習	同	同	九時
フリニネット	姿勢、用息法、手指運用法、樂曲練習	同	同	九時
ホルニネット	同上	同	同	九時

第三年

獨唱歌	練聲術 歌曲演習	同	同	八時
洋琴	音階練習、特習法 樂曲練習	同	同	十時
風琴	觸擊法 發相法等	同	同	八時
バイオリン	手指運用法、特習法 樂曲練習	同	同	十時
ヴァイオリン	同上	同	同	十時
ダブルベース	姿勢、用弓法、手指運用法、特習法、樂曲練習	同	同	十時
フリニネット	姿勢、用息法、手指運用法、樂曲練習	同	同	十時
ホルニネット	同上	同	同	十時
和聲學	調和ノ理論及實用	同	同	八時
音樂論	音響學	同	同	二時
文學	詩歌學、作歌	同	同	二時
外國語	英語讀方、作文、文法	同	同	三時
體操、舞蹈	徒手運動、練聲 運動、方舞演習	同	同	六時
倫理	倫理要旨	一年間	每週	一時
合唱歌	高等單音唱歌 複音及諸重音唱歌	同	同	一時
獨唱歌	高等歌曲	同	同	六時
洋琴	音階練習、特習法 樂曲練習	同	同	九時
風琴	樂曲練習	同	同	九時
バイオリン	手指運用法、特習法 樂曲練習	同	同	六時
ヴァイオリン	同上	同	同	九時
ダブルベース	姿勢、用弓法、手指運用法、特習法、樂曲練習	同	同	九時
フリニネット	姿勢、用息法、手指運用法、樂曲練習	同	同	九時
ホルニネット	同上	同	同	九時

和聲學	調和及對立ノ理論及實用、樂曲製作法	同	同	三時
文學	詩歌學、作歌	同	同	二時
外國語	英語讀方、作文、文法、伊語發音及讀方	同	同	六時
教育	教育學大綱、音樂教授法	同	同	二時
體操、舞蹈	徒手運動、練習運動、方舞演習	同	同	二時

明治三十三年～三十四年

規則改正に伴い、カリキュラムも以下のように改正となる。本科の樂歌部、研究科の作歌部はこのとき置かれ、四十二年四月の規則改正のさい廃止された。ただしこの間の『東京音樂學校一覽』の生徒調を見ると、樂歌部の生徒は三十三年に入学した一名のみで、作歌部はついに一名も入学しなかつたようである。

規則中カリキュラムに相当する第四條、第十條、第十三條、第十四條は次のとおり。

第四條 豫科ノ學科目ハ倫理、唱歌、ピアノ、樂典、寫譜、國語、英語、體操、方舞トシ課外ニ漢文ヲ置ク

第五條 本科ヲ分チテ聲樂部器樂部樂歌部トス其學科目左ノ如シ
 聲樂部ハ倫理、獨唱歌、諸重音唱歌、ピアノ又ハオルガン、和聲學、樂典、音樂史、音響學、樂式一班、審美學、歌文、外國語、體操、方舞トス

器樂部ハ倫理、器樂、諸重音唱歌、和聲學、樂典、音樂史、音響學、樂式一班、審美學、歌文、外國語、體操、方舞トス
 樂歌部ハ倫理、歌文、支那詩文、西洋詩文、歴史、諸重音唱歌、

ピアノ又ハオルガン、和聲學、樂典、樂式一班、音樂史、音響學、審美學、外國語、體操、方舞トス

第六條 隨意科トシテ教育學及教授法ヲ課シ課外學科トシテ生理學、心理學、樂器構造法及調律法ヲ置ク

第七條 豫科ノ學科課程左ノ如シ

豫科學科課程

學科	科目	時間	數
倫理	倫理		一
唱歌	唱歌		八
ピアノ	ピアノ		三六
樂典	樂典		一
寫譜	寫譜		一
國語	國語		四
英語	英語		四
體操	體操		二
方舞	方舞		二
課外漢文	課外漢文		二
計			二二六
練習			一〇八

*印アル科目ハ女生徒ノミニ課ス

第八條 本科ノ學科課程ハ左ノ如シ

本科學科課程

審美學	音響學	音樂史	樂式一班	歷史	西洋詩文	支那詩文	歌文	樂曲	和聲學	器樂			聲樂		倫理	學科目 學年	部名	
										ヴァイオリン等	ピアノオルガン	又ハノ	唱重音	獨唱歌				
	二	二					三	一			練習六	同上七	同上五	練習四	同上三	同上三	第一	聲樂部時間數
		二					三	二			同上七	同上五	同上四	同上三	同上三	第二		
二			二				三	二			同上五	同上二	同上四	同上三	同上三	第三		
	二	二					三	一			同上四	同上三	同上五	同上三	同上三	第一	器樂部時間數 ピアノ、オルガン専門	
		二					三	二			同上五	同上三	同上三	同上三	同上三	第二		
二			二				三	二			同上三	同上三	同上三	同上三	同上三	第三		
	二	二					三	一			練習八	同上五	同上三	同上三	同上三	第一	他樂器専門	
		二					三	二			同上五	同上三	同上三	同上三	同上三	第二		
二			二				三	二			同上三	同上三	同上三	同上三	同上三	第三		
	二	二		二			七	一			練習七	同上八	同上二	同上三	同上三	第一	樂歌部時間數	
		二		二	三	二	七	二			同上八	同上二	同上三	同上三	同上三	第二		
二			二	二	三	二	七	二			同上六	同上二	同上三	同上三	同上三	第三		

唱歌指揮法	樂器 ヴァイオリン、 オルガン、 ピアノ、 又ハノ	樂 唱重音 諸歌練習	聲 獨唱歌	學科目 學年	部名
三		二	若クハ三	第一	聲樂部時間數
				第二	
	三			第一	器樂部時間數 ピアノ、オルガン専門
				第二	
	一三			第一	他樂器専門
				第二	
	二			第一	作歌時間數
				第二	
	二			第一	作曲時間數
				第二	

第九條 研究科ハ聲樂、器樂、作曲及作歌ヲ専攻スル者ノ爲メニ之ヲ設ク其學科課程ハ左ノ如シ

研究科學科課程

* 印アル科目ハ女生徒ノミニ課ス

隨意科トシテ教育學及教授法ニ時間實地授業若干時ヲ課ス

計	科學		外課		* 方體 舞操	獨、佛、英語、若クハ
	調律法	構造法	心理學	生理學		
一練習〇	一	一	一	一	二	三
二同上	一	一	一	一	二	三
三同上	一	一	一	一	二	三
四同上	一	一	一	一	二	三
五同上	一	一	一	一	二	三
六同上	一	一	一	一	二	三
七同上	一	一	一	一	二	三
八同上	一	一	一	一	二	三
九同上	一	一	一	一	二	三
一〇同上	一	一	一	一	二	三
一一同上	一	一	一	一	二	三
一二同上	一	一	一	一	二	三
一三同上	一	一	一	一	二	三
一四同上	一	一	一	一	二	三
一五同上	一	一	一	一	二	三
一六同上	一	一	一	一	二	三
一七同上	一	一	一	一	二	三
一八同上	一	一	一	一	二	三
一九同上	一	一	一	一	二	三
二〇同上	一	一	一	一	二	三
二一同上	一	一	一	一	二	三
二二同上	一	一	一	一	二	三
二三同上	一	一	一	一	二	三
二四同上	一	一	一	一	二	三
二五同上	一	一	一	一	二	三
二六同上	一	一	一	一	二	三
二七同上	一	一	一	一	二	三
二八同上	一	一	一	一	二	三
二九同上	一	一	一	一	二	三
三〇同上	一	一	一	一	二	三

計	歌文	西洋詩文	作歌	合奏練習	管絃樂指揮法	聽音	作曲
二練習 一三						三	一
二同 一三				二	二	三	二
二同 一三				二	二	三	二
二同 一三	四	二	四				一
二同 一三				二	二	三	四

第十條 研究科第二學年ニ於テハ聲樂、器樂、作歌、作曲ノ内一科

目ヲ專攻セシム

第十三條 師範科學科課程左ノ如シ

甲種師範科學科課程

學科目	學年	第一年時間數	第二年時間數	第三年第二學期時間數
倫理		一	一	一
唱歌		一〇	八	八
オルガン 又ハピアノ		三	二	二
樂理		樂典 寫譜 二	樂典、 音聲論 二	
和聲學		二	二	二
音樂史		二	二	二

計	體操遊戯 及*諸禮	英語	唱歌教授法	教育學	詩歌評釋
練習 一〇四	二	二		二	二
同上 二〇四	二		一	二	二
同上 一五九	二		實地授業 若干時		二

*印アル科目ハ女生徒ノミニ課ス

乙種師範科學科課程

學科目	時間數
倫理	一
唱歌	一〇
オルガン	三
樂理	樂典、寫譜 二
唱歌解釋	三
唱歌教授法	第三學期 一
體操遊戯及*諸禮	三
計	練習 一三

*印アル科目ハ女生徒ノミニ課ス

第十四條 甲種師範科生徒ニハ「ヴァイオリン」ヲ課スルコトアル

。印アル科目ハ生徒ヲシテ一科目ヲ撰擇セシメ*印アル科目ハ

女生徒ノミニ課ス

明治三十五年〜三十六年

規則第十三條中、甲種師範科の学科目と時間数に変更あり。

第十三條 師範科學科課程左ノ如シ

甲種師範科學科課程

學科目	學年		
	第一年時間數	第二年時間數	第三年時間數
倫理	一	一	一
唱歌	八	八	八
オルガン又ハピアノ	三	二	二
樂理	二	一	二
和聲學		二	二
音樂史	一	二	
詩歌評釋	二		
教育學	二	二	
唱歌教授法		一	實地授業 若干時
國語及漢文	四	五	五
英語	四	五	五
調律練習			若干時
體操遊戯及*諸禮	二	二	二
計	練習六乃至二二五	同上二六	同上二〇

明治三十六年〜三十七年

規則第五條中、声乐部と楽歌部に關して一部変更された。また第七條中、予科のピアノと写譜に關して改正され、第八條中、本科においては声乐部の器樂に關して改正されたほか、随意科目と他の学科の課し方についての説明が追加された。そして第九條の研究科においては、器樂部の器樂の時間数がふえた一方、唱歌指揮法、聴音、管弦樂指揮法の学科目が削除された。さらに第十三條中、甲種師範科における實地授業の扱いに關する説明が追加された。

以下、改正条項、改正箇所を挙げる。

第五條 本科ヲ分チテ聲樂部、器樂部、樂歌部トス其學科目左ノ如シ
 聲樂部ハ倫理、獨唱歌、諸重音唱歌、器樂、和聲學、樂典、音樂史、音響學、樂式一班、美學、歌文、外國語、體操、方舞トス
 器樂部ハ倫理、器樂、諸重音唱歌、和聲學、樂典、音樂史、音響學、樂式一班、美學、歌文、外國語、體操、方舞トス
 樂歌部ハ倫理、歌文、支那詩文、西洋詩文、歷史、諸重音唱歌、器樂、和聲學、樂典、樂式一班、音樂史、音響學、美學、外國語、體操、方舞トス

第七條 豫科ノ學科課程左ノ如シ

豫科學科課程

學科目	時間數
ピアノ	三乃至五

寫譜	第一、第二学期	一
	練習	二三乃至二六 九乃至一二

第八條 本科ノ學科課程左ノ如シ

本科學科課程

部名	學年			器樂部時間數	器樂部時間數	他樂器專門	樂歌部時間數
	第一	第二	第三				
聲樂部	第一	第二	第三	同上	同上	同上	同上
	練習	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
器樂部	第一	第二	第三	同上	同上	同上	同上
	練習	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

隨意科目ヲ課スルトキハ他ノ學科目ノ教授時數若干ヲ減シテ之ニ充ツルコトアルベシ

第九條 研究科ハ聲樂器樂作歌及作曲ヲ專攻スル者ノ爲メニ之ヲ設ク其學科課程ハ左ノ如シ

研究科學科課程

部名	學年		聲樂時間數	器樂時間數	作歌時間數	作曲時間數
	第一	第二				
計	第一	第二	同上	同上	同上	同上
	練習	同上	同上	同上	同上	同上
	同上	同上	同上	同上	同上	同上

第十三條

實地授業ヲ課スルトキハ他ノ學科目ノ教授時數若干ヲ減シテ之ニ充ツルコトアルベシ

明治四十年〜四十一年

二月、第十三條中、甲種師範科のカリキュラムから詩歌評釈と英語を削除し、音楽史と国語を増加することが仮規則の形で追加され、施行される。これは四十二年に正式に改正される。

第十三條

當分ノ内詩歌評釋及英語ヲ除キ第一年時間數音樂史一ヲ二ニ國語及漢文四ヲ六ニ改ム

〈參考資料〉

明治三十七年二月に行われた甲種師範科の入学試験問題を掲載する。

第一號 國語科入學試験問題

一、左の文を簡明に解釋すべし

仁和寺に或法師年よるまで石清水を拜まざりければ心憂くおぼえてある時思ひ立ちてたゞひとりかちより極樂寺高良などを拜みてかばかりと心得て歸りにけり偕かたへの人に逢ひて年頃思ひつる事はたし侍りぬ聞きしにも過ぎてたふとくこそおはしけれそも参りたる人ごとに山へ登りしは何事かありけむ

大納言入道召し捕られて武士ども打ちかこみて六波羅へゐて行き